

身近な海岸で10億年前の石を探そう 石の観察会 in 只の浜

3月7日、只の浜海岸で県自然観察指導員協議会主催の「石の観察会」が行われ、子どもから大人まで約60人が参加しました。

只の浜海岸には10億年前のものと推定される「オルソコーツァイト」と呼ばれる石が点在しており、観察会では多々良学園高校教諭の上田薫さんが石の色や形などの特徴を説明。参加者はこの特徴をもとにオルソコーツァイトを探して歩き、石を発見するとルーペで熱心に観察していました。



オルソコーツァイトは構成粒子の90%以上が石英粒からなる特殊な砂岩で、年代は4億から10億年前と古く、日本国内でも8カ所でのみ確認されています。

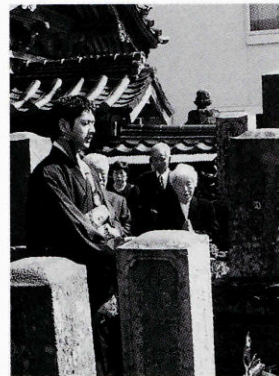
県スポーツ指導者 萩・長門地域研修会

3月6日、ながと総合体育館でスポーツ指導者を対象とした研修会が開催され、萩、長門地域の日本体育協会公認スポーツ指導者や体育指導員、スポーツ少年団指導者など約150人が参加しました。



金子みすゞ墓前祭

金子みすゞの墓前祭が、命日の3月10日、遍照寺で行われました。長女の上村ふさえさんや金子みすゞ顕彰会関係者のほか、訪れた観光客も一緒に参列し、みすゞの冥福を祈りました。



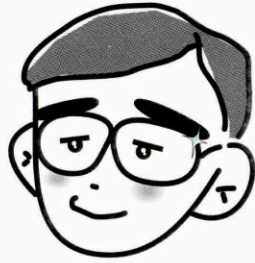
リズムエクササイズ で健康づくり

2月27日、向陽小学校で矢野健康体操研究会の矢野道代さんを講師に招き、リズムエクササイズが行われ、児童や保護者など約120人が参加して体を動かしながら楽しく健康づくりを学びました。



ながと日記 ばーと45

長門市長 松林正俊



50年を振り返る ●成長期●

山口国体で元氣と自信をもたらした長門市は昭和39年に10代にはいりますが、この年から特急「まつかぜ」が長門市駅に停車し始め、高松宮殿下が青海島展望台を「碧涛台」と命名されるなど、「観光・ながと」のイメージづくりが進められていきます。

社会資本整備も、青海大橋の完成や県道青海島線の一部開通、通地区の上水道整備など、長門市の一体化を目指した計画が着々と実行されました。また昭和47年には、東深川地区の公共下水道事業が一部供用開始されるなど都市的機能

整備も着手されます。

また住民参加のまちづくりでは、通婦人防火隊が結成をされ、消防本部・消防業務が長門地区広域行政事務組合のもとで開始されて、地域消防の拠点づくりと自治防災体制が確立されました。そして、長門青年会議所とお隣・韓国の鎮海青年会議所との姉妹締結や大阪万博の「湯本南条踊」の参加など官民が一体となった「まちの顔づくり」にも力が注がれ、昭和45年には、「青い海、緑と太陽の街」の都市宣言をします。

東京オリンピックはこの10年の躍進を象徴するように開幕しました。東海道新幹線の開通や日本列

島改造論の発表は日本の高度成長の代表格といえます。朝永博士や江崎博士のノーベル物理学賞、川端康成の文学賞受賞など日本人の優秀さを世界に見せつけたのもこの10年でした。

また一方では、3億円事件やよど号乗取り事件、三島由紀夫割腹事件など、今だ記憶に新しい印象的な事件もありました。

国際社会は、アポロ11号の成功で人類初の月面着陸はアメリカに軍配は挙げたものの、米ソ対立は激化し、ベトナム戦争や中東戦争などの代理戦争が勃発していき

ます。日本社会が高度経済成長の絶頂



▲ 工事中の青海大橋（昭和40年10月完成）

期に向かつて突き進むなか、長門市もまた成長を遂げた時代であったのだと思います。